
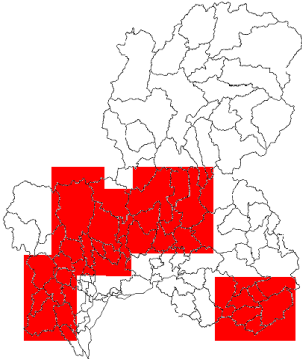


ヤマブキソウ	<i>Hylomecon japonica</i> (Thunb.) Prantl et Kündig	準絶滅危惧
		ケシ科
選定理由	石灰岩地に生育することが多く、開発の対象になり減少している。	<p>写真(高橋弘)</p> 
形態の特徴	根茎があり、長い柄の根出葉を出す。羽状複葉。花梗は高さ25-40cmで分岐せず、上部に2-3個の茎葉をつける。花期は4-6月。花は大きく1-2個花梗につく。花は黄色で、円い大きな花弁が4個、雄しべ多数、雌しべは1個。さく果は細長い円形で長さ4-7cm。	
生態的特徴	低地の樹林下に生育する。しばしば石灰岩地にみられる。多年草。全草にアルカロイドを含む。	
分布状況	暖帯：関東以南の本州・四国・九州、中国・朝鮮半島・ロシア沿海州に分布する。岐阜県においては、美濃地方に分布する。	
減少要因	石灰岩地の開発。	
保全対策	石灰岩地の保全。花の美しさから観賞用に栽培されることもあり、採取を制限する。	
特記事項	1属1種。葉形の変化が多く、ホソバヤマブキソウ・セリバヤマブキソウという品種がある。	
参考文献	日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類 平凡社(1982) 原色日本植物図鑑 中 保育社(1961) 週間朝日百科 植物の世界91 朝日新聞社(1996)	

文責：三品和子